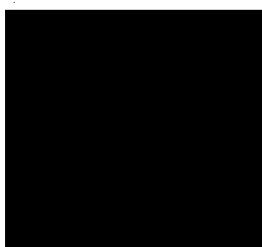


佐大医経第463号
平成20年10月1日

厚生労働大臣 殿

(開設者) 佐賀大学長
長谷川



佐賀大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	56. 62人
--------	---------

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第13)

- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、栄養管理士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	264人	92人	337.6人	看護業務補助	17人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	4人	16.2人	理学療法士	7人	臨床検査技師	25人
薬剤師	23人	0人	23.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	2人	その他	0人
助産師	12人	1人	12.3人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	462人	13人	468.6人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	0人	1人	0.3人	歯科技工士	1人	事務職員	70人
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	20人	その他の職員	21人

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	478.9人	13.1人	492.0人
1日当たり平均外来患者数	709.1人	54.9人	764.0人
1日当たり平均調剤数		671.5剤	

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
インプラント義歯	有・無	14人
顎顔面補綴	有・無	0人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
成長障害のDNA診断	有・無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
重粒子線治療	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
31磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人
膀胱水圧拡張術	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジエネレーション法	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
カフェイン併用化学療法	有・無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
実物大臓器立体モデルによる手術計画	有	2人

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	51 人	・モヤモヤ病(ウィルス動脈輪閉塞症)	101 人
・多発性硬化症	43 人	・ウェグナー肉芽腫症	5 人
・重症筋無力症	62 人	・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	39 人
・全身性エリテマトーデス	195 人	・多系統萎縮症	12 人
・スモン	1 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人
・再生不良性貧血	23 人	・膿疱性乾癬	3 人
・サルコイドーシス	36 人	・広範脊柱管狭窄症	4 人
・筋萎縮性側索硬化症	12 人	・原発性胆汁性肝硬変	11 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	127 人	・重症急性胰炎	5 人
・特発性血小板減少性紫斑病	62 人	・特発性大腿骨頭壊死症	61 人
・結節性動脈周囲炎	18 人	・混合性結合組織病	25 人
・潰瘍性大腸炎	96 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・大動脈炎症候群	12 人	・特発性間質性肺炎	6 人
・ビュルガー病	9 人	・網膜色素変性症	13 人
・天疱瘡	10 人	・プリオント病	2 人
・脊髄小脳変性症	35 人	・原発性肺高血圧症	4 人
・クローン病	31 人	・神経線維腫症	7 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・悪性関節リウマチ	7 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・パーキンソン病関連疾患	103 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	1 人
・アミロイドーシス	7 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2 人
・後縦靭帯骨化症	10 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・ハンチントン病	0 人	・先天性血液凝固因子障害	14

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に3回程度	
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 29 例	剖検率 10.7 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
電子カルテによって失われた教育効果を取り戻す一研修医の教育方法の開発	江村 正	卒後臨床研修センター	1,400,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
乳児喘息発症におけるロイコトリエンと自然免疫とのクロストーク、発症予防への応用	在津 正文	小児科	800,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
複合性局所疼痛症候群(CRPS)の病態と治療に関する基礎的・臨床的研究	平川 奈緒美	麻酔科蘇生科	600,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
血中ラミン γ 2鎖濃度測定による頭頸部癌の浸潤・転移能の診断	倉富 勇一郎	耳鼻咽喉科	700,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
生理的条件下と障害下では小腸粘膜アポトーシス実行機序に差がある	藤本 一真	消化器内科	1,100,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
脂質摂取による大腸癌発生促進機序の解明	岩切 龍一	光学医療診療部	1,300,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
多発性硬化症における自己抗体の抗原認識部位の解明	黒田 康夫	神経内科	1,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
B細胞上のRP105分子の総合解析-自己免疫疾患における機能から創薬まで-	長澤 浩平	膠原病・リウマチ内科	1,200,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
川崎病病態形成におけるトールライクレセプターを介するシグナル伝達の解析	西村 真二	小児科	1,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
小児気管支喘息発症および発作憎悪に、気道ウィルス感染症などどのように関与するか	山本 修一	小児科	1,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
乳幼児喘鳴の発症機序におけるロイコトリエンの役割: 幼若動物を用いた研究	浜崎 雄平	小児科	1,500,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
メルケル幹細胞ないし前駆細胞の同定と分化過程に関する研究	成澤 寛	皮膚科	1,300,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
局所麻酔薬の神経毒性に関する作用機序の解明	十時 忠秀	病院長(麻酔科蘇生科)	1,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
気相-液相界面の喉頭癌細胞増殖・浸潤活性化における細胞膜マイクロドメインの役割	戸田 修二	病理部	1,100,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
簡便で定量性を備えた味覚検査法の実用化に関する研究	井之口 昭	耳鼻咽喉科	1,400,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
膠原病患者のストレス不適応についての基礎的研究およびストレスマネジメント介入効果	大田 明英	膠原病・リウマチ内科	1,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
酸素による硝子体融解処理を応用した新しい網膜硝子体疾患治療の開発	平田 憲	眼科	1,300,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
心不全の新規治療法の開発	野出 孝一	循環器内科	2,460,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
ATLの発症、進展におけるDNA修復阻害因子hnRNP B1の作用と治療への応用	末岡 榮三朗	血液内科	3,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
自己免疫疾患における自己抗体産生RP105陰性B細胞を標的とした治療法の開発	小荒田 秀一	膠原病・リウマチ内科	2,700,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
TLR4シグナルを介した気管支喘息抑制における分子機構の解析	太田 昭一郎	病理部	2,378,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
伊万里市黒川町における老化に関する長期縦断疫学研究	山田 茂人	精神神経科	2,200,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
虚血性僧帽弁逆流の発生原因の解明と外科治療への応用一心臓内視鏡による検討-	古川 浩二郎	心臓血管外科	3,125,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
尿細管上皮の増殖・構造・機能分化に与える脂肪組織の影響の解析および再生機構の解明	魚住 二郎	泌尿器科	1,500,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
子宮頸癌発癌過程とエピジェネティクスの変化: 癌化予測および治療への応用	岩坂 剛	産科婦人科	1,200,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
有明海における細菌感染防止のための抗体検査法確立	荒木 和邦	手術部	2,552,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
胆汁中DNAメチル化プロファイルによる早期胆囊癌診断法の開発	宮崎 耕治	一般・消化器外科	300,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
酸素ラジカルを用いた歯科用小型低温滅菌装置の開発	後藤 昌昭	歯科口腔外科	3,373,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
アンジオテンシン1型受容体インバースゴニスト機構の解明	竹迫 大伸	循環器内科	1,280,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高分解能乳腺MRIによる微少病変の診断能の検討	中園 貴彦	放射線科	700,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
客観的指標に基づく効率的、個別的うつ病治療戦略の構築	植木 裕司	精神神経科	500,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
Adipocytokineによる皮膚有棘細胞癌の分化誘導療法	井上 卓也	皮膚科	2,598,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
膀胱治療における癌抑制遺伝子ASCの役割	大塚 隆生	一般・消化器外科	3,500,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
ゲノミクス・プロテオミクス複合解析を利用した脳腫瘍(神経膠腫)のプロファイリング	岡本 浩昌	脳神経外科	4,071,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
骨髓幹細胞(前駆脂肪細胞)の前立腺癌への影響:シグナル伝達の網羅的解析	佐藤 勇司	泌尿器科	2,000,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
癌関連抗原Melkの免疫学的検討	門司 幹男	耳鼻咽喉科	1,600,000	(補) 文部科学省 科学研究費補助金
臨床研修における標準的EBM教育カリキュラムの普及と評価に関する研究	小泉俊三	総合診療部	10,000,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金
スモンに関する調査研究(佐賀県在住スモン患者の実態調査)	雪竹 基弘	神経内科	700,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
進行卵巣がんにおける化学療法先行治療の確立に関する研究	岩坂 剛	産婦人科	1,300,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
進行・再発子宮頸癌に対する標準的治療体系の確立に関する研究	岩坂 剛	産婦人科	600,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
免疫疾患に対する免疫抑制療法等先端的新規治療法に関する研究	長澤 浩平	膠原病・リウマチ内科	2,000,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	長澤 浩平	膠原病・リウマチ内科	900,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
アトピー性皮膚炎の症状の制御および治療法の普及に関する研究	浜崎 雄平	小児科	2,700,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	佛淵 孝夫	整形外科	800,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
植込み型又はインプラント医療機器の不具合情報の収集及び安全性情報の提供のあり方に関する研究	佛淵 孝夫	整形外科	1,000,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
家庭用化学製品のリスク管理におけるヒトデータの利用に関する研究	奥村 徹	救命救急センター	1,000,000	(補) 厚生労働省 科学研究費補助金(分担)
計 80,737,000 円				

2 論文発表等の実績

1ページ

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Scand J Infect Dis 39: 577-583, 2007.	High expression of Toll-like receptor 4 on CD14 ⁺ monocytes in acute infectious diseases.	Haruta Y	膠原病リウマチ内科
Clin Exp Rheumatol 26: 5-12, 2008.	Increase of RP105-lacking activated B cells in the peripheral blood and salivary glands in patients with Sjogren's syndrome.	Kikuchi Y	膠原病リウマチ内科
感染症学雑誌 81: 305-308, 2007.	多彩な症状を呈しイヌ回虫幼虫移行症が疑われた1例。	三田村未央	膠原病リウマチ内科
九州リウマチ 26: 125-129, 2007.	腹痛・腰痛を主訴とした高安動脈炎の一例。	戸山真吾	膠原病リウマチ内科
九州リウマチ 26: 130-134, 2007.	レフルノミド投与中に発症した悪性関節リウマチの一例。	井上久子	膠原病リウマチ内科
臨床神経学	central pontine and extrapontine myelinolysis のMRI所見を呈した、大酒家に生じたビタミンB12欠乏症の1例	永石彰子	神経内科
Arch Neurol.	Vasculitic neuropathy in a patient with hereditary C1 inhibitor deficiency.	Yakushiji Y	神経内科
Cerebrovasc Dis	Transoral carotid ultrasonography is useful for detection and follow-up of extracranial internal carotid artery dissecting aneurysm.	Yakushiji Y	神経内科
J Neurovirol	Significantly increased antibody response to heterogeneous nuclear ribonucleoproteins in cerebrospinal fluid of multiple sclerosis patients but not in patients with human T-lymphotropic virus type I-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	Yukitake M	神経内科
J Neurol Sci	Identification of a new homozygous frameshift insertion mutation in the SIL1 gene in 3 Japanese patients with Marinesco-Sjögren syndrome.	Eriguchi M	神経内科
Intern Med.	Long-term treatment of steroid-dependent myasthenia gravis patients with low-dose tacrolimus.	Nagaishi A	神経内科
J Gastroenterol 42: 522-527, 2007	Stress Maladjustment in the Pathoaeiology of Ulcerative Colitis.	Kuroki T	消化器内科
小計	12件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
J Gastroenterol 42: 528-532, 2007	Endoscopic hemostasis for bleeding gastric varices treated by combination of variceal ligation and sclerotherapy with N-butyl-2-cyanoacrylate. J	Sugimoto N	消化器内科
Aliment Pharmacol Ther 26: 257-264, 2007.	Generation of dyspeptic symptoms by direct acid infusion into the stomach of healthy Japanese subjects.	Fujimoto K	消化器内科
Intern Med 46: 1951-1955, 2007	Dysphagia in Adult Japanese Was Not Equivalent to Grade of Endoscopic Reflux Esophagitis.	Yoshihara K	消化器内科
J Gastroenterol 43: 265-269, 2008	Bleeding and stenosis caused by reflux esophagitis was not common in emergency endoscopic examinations: a retrospective patient chart review at a single institution in Japan.	Yamaguchi M	消化器内科
Gastrointest Endosc 67: 979-983, 2008	Case series of endoscopic balloon dilatation to treat stricture caused by circumferential resection of the gastric antrum by endoscopic submucosal dissection.	Tsunada S	光学医療診療部
Am J Cardiol. 2007 Aug 15;100 (4):569-574.	High molecular weight adiponectin as a predictor of long-term clinical outcome in patients with coronary artery disease.	Inoue T	循環器内科
Cardiovasc Drugs Ther. 2007 Aug;21 (4):281-295.	Statin therapy for vascular failure.	Inoue T	循環器内科
Atherosclerosis. 2008 Mar;197 (1):368-374.	Pentraxin3 is a novel marker for stent-induced inflammation and neointimal thickening.	Kotooka N	循環器内科
J Cardiol. 2007 May;49 (5):231-239.	Association between silent ST segment depression in exercise electrocardiography and insulin resistance in obese subjects.	Michishita R	循環器内科
Horm Metab Res. 2007 May;39 (5):372-376.	Effect of telmisartan on cholesterol levels in patients with hypertension - Saga Telmisartan Aggressive Research (STAR).	Inoue T	循環器内科
Coron Artery Dis. 2007 Jun;18 (4):319-322.	Remnant-like lipoprotein particle level and insulin resistance are associated with in-stent restenosis in patients with stable angina.	Kato T	循環器内科
Int J Cardiol. 2008 Mar 14;124 (3):319-325. Epub 2007 Apr 17.	Interleukin-8 as an independent predictor of long-term clinical outcome in patients with coronary artery disease.	Inoue T	循環器内科
Jpn Pharmacol Ther	C型慢性肝炎と非アルコール性脂肪性肝疾患における内臓脂肪蓄積とインスリン抵抗性の比較検討	江口有一郎	肝臓・糖尿病・内分泌内科
小計	13 件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Hepatol Res	High-dose vitamins E and C supplementation prevents ribavirin-induced hemolytic anemia in patients with chronic hepatitis C.	Kawaguchi Y	肝臓・糖尿病・内分泌内科
J Clin Biochem Nutr	Radiofrequency ablation with the real-time virtual sonography system for treating hepatocellular carcinoma difficult to detect by ultrasonography.	Kawasoe H	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Experimental Dermatology	Expression patterns of programmed cell death 4 protein in normal human skin and some representative skin lesions	Matsuhashi S	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Clin Cancer Res	Menatetrenone, a vitamin K2 analogue, inhibits hepatocellular carcinoma cells by suppressing cyclin D1 expression through the NF- κ B activation inhibition	Ozaki I	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Cancer Sci	Inverse association between coffee drinking and the risk of hepatocellular carcinoma: a case-control study in Japan	Tanaka K	肝臓・糖尿病・内分泌内科
日本消化器病学会雑誌	劇症型で発症し、不幸な転帰をとった遅発型オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症の1例	安武 努	肝臓・糖尿病・内分泌内科
Journal of Rheumatology	High-resolution computed tomography characterization of interstitial lung diseases in polymyositis/dermatomyositis.	Hayashi S	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌	近位気管支狭窄および著明な気道狭窄と右室の拡大を伴ったサルコイドーシスの1例	小林弘美	呼吸器内科
Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	Mutation profile of EGFR gene detected by denaturing high-performance liquid chromatography in Japanese lung cancer patients.	Sueoka N	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌	肺膿瘍の経過中に認められた感染性肺動脈仮性動脈瘤の1例	小林弘美	呼吸器内科
Leuke Lymphoma	Non-germinal cell phenotype and bcl-2 expression primary adrenal diffuse large B-cell lymphoma	Ide M	血液内科
小計	11件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
J Cancer Res Clin Oncol.	Establishment of a new method, transcription-reverse transcription concerted reaction, for detection of plasma hnRNP B1 mRNA, a biomarker of lung cancer.	Sato A	血液内科
Cancer Sci	Exon 19 of EGFR mutation in relation to the CA-repeat polymorphism in intron 1	Sueoka-Aragane N	血液内科
J Cardiovasc Pharmacol	Simvastatin stimulates vascular endothelial growth factor production by hypoxia-inducible factor-1alpha upregulation in endothelial cells.	Nishimoto-Hazuku A	腎臓内科
Clin Nephrol.	Reversible primary hypothyroidism in Japanese patients undergoing maintenance hemodialysis.	Sanai T	腎臓内科
Ther Apher Dial	Partial blood recirculation: a new trial for prolonging filter life during continuous hemodiafiltration. Ther Apher Dial.	Ikeda Y	腎臓内科
Angiology	Rhabdomyolysis and unilateral renal infarction after a motor vehicle crash.	Sanai T	腎臓内科
日本小児アレルギー学会誌 21:235-239, 2007	小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2005をどう読むか	浜崎雄平	小児科
J Child Neurol. 2007;22: 1393-1396	Chronic myoclonia of subcortical origin with antiglutamate receptor antibodies	Matsuo M	小児科
Ped International. 2007; 49: 235-237	Human uric acid transporter 1 gene analysis in familial renal hypo-uricemia associated with exercise-induced acute renal failure.	Otsuka Y	小児科
Br J Haematol	Expression and production of aberrant PAX5 with deletion of exon 8 in B-lineage acute lymphoblastic leukaemia of children.	Sadakane Y	小児科
Surg Today	Multiple inflammatory pseudotumor of the liver, mimicking cholangiocarcinoma with tumor embolus in the hepatic vein: report of a case.	Kai K	一般・消化器外科
Oncol Rep	Helicobacter pylori infection is an independent risk factor for Runx3 methylation in gastric cancer.	Kitajima Y	一般・消化器外科
小計	12件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Cancer Letters	Quantitative double-fluorescence immunohistochemistry (qDFIHC), a pilot study analyzing 5-FU sensitive markers thymidylate synthase, dihydropyrimidine dehydrogenase and orotate phosphoribosyl transferases in gastric cancer tissue specimens	Kai K	一般・消化器外科
Hepato-Gastroenterology	Comparison of the Postoperative Outcome after a Pancreatoduodenectomy using the Billroth I and II Type of Reconstruction	Ohtsuka T	一般・消化器外科
J Gastroenterol	Aberrant methylation of p16 predicts candidates for 5-fluorouracil-based adjuvant therapy in gastric cancer patients	Mitsuno M	一般・消化器外科
Dig Dis Sei	False-positive Findings for Tumor Markers after Curative Gastrectomy for Gastric Cancer	Ohtsuka T	一般・消化器外科
Hepatology Research	An autopsy case of obstructive jaundice due to hepatic multiple peribiliary cysts accompanying hepatolithiasis	Kai K	一般・消化器外科
Hepato-Gastroenterology	Successful wound management for infected perineum in recurrent rectal cancer by a two-step operation using muscle flaps: a case report	Nakafusa Y	一般・消化器外科
Genes Genet. Syst.	MeCP2 knockdown reveals DNA methylation-independent gene repression of target genes in living cells and a bias in the cellular location of target gene products	Yakabe S	一般・消化器外科
Oncology Reports	Expression of the hMLH1 gene is a possible predictor for the clinical response to 5-fluorouracil after a surgical resection in colorectal cancer	Ide T	一般・消化器外科
Dig Dis Sei	Different roles of tumor marker monitoring after curative resections of gastric and colorectal cancer	Ohtsuka T	一般・消化器外科
日消外会誌	医原性十二指腸乳頭損傷に対する1治験例	中村 淳	一般・消化器外科
Anticancer research	CPT (SN-38) Chemotherapy may be Selectively Applicable to Biliary Tract Cancer with Low hMLH1 Expression.	Sato K	一般・消化器外科
小計	11 件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
日本外科感染症学会雑誌	無水エタノール ablation にて閉鎖できた難治性瘻孔の4症例	松山 哲	一般・消化器外科
Ann. Surg. Oncol	The hypoxic environment in tumor-stromal cells accelerates pancreatic cancer progression via the activation of paracrine hepatocyte growth factor/c-Met signaling.	Ide T	一般・消化器外科
日本消化器外科学会雑誌	術中血管造影のうち血栓除去術で治癒した上腸間膜動脈閉塞症の1例	大塚隆生	一般・消化器外科
Hepatogastroenterology	Sigent ring cell carcinoma of the lower bile duct with rapid growth: A case report.	Hiraki M	一般・消化器外科
Hepatology Research	Intrahepatic multicystic biliary hamartoma: Report of a case.	Kai K	一般・消化器外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery Vol 55, No 7, 275-280, July 2007	Clinical benefits and complications of Dumon stent inasertion for the treatment of severe central airway fistula.	Mitsuoka M	胸部心臓血管外科
久留米医学会雑誌 Vol 70, No 5, 134-140, May 2007	肺癌切除のクリニカルパス：紙パスから電子パスへ	光岡正浩	胸部心臓血管外科
Asian Cardiovasc Thorac Ann 15 (3), 204-209, 2007, 6	Nicorandil attenuates reperfusion injury after long cardioplegic arrest.	Okazaki Y	胸部・心臓血管外科
J Heart Valve Dis 16 (6), 602-607, 2007, 11	Configurations of the mitral valve during off-pump coronary artery bypass grafting: endoscopic and three-dimensional analysis.	Okazaki Y	胸部・心臓血管外科
Heart Lung Circ E-pub 2007 Apr 17 (3), 261-263, 2008, 3	Partial aortic root remodeling for fistula between the non-coronary sinus and the right atrium	Okazaki Y	胸部・心臓血管外科
Clinical Calcium	【大腿骨頭壊死症 痘学・病態から治療まで】大腿骨近位部骨切り術後症例に対する人工股関節置換術の要点	重松正森	整形外科
Med Mol Morphol	Effects of glucocorticoid on adipocyte size in human bone marrow Med Mol Morphol	Kitajima M	整形外科
Hip joint	臼蓋形成不全は体表からの計測で予測可能か	北島 将	整形外科
Hip Joint	当科における寛骨臼移動術後5年以上の成績	重松正森	整形外科
小計	14件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Journal of Orthopaedic Science	Angioleiomyoma overlying the Achilles tendon	Sonohata M	整形外科
日形会誌 27(4):306-310.	前額部に生じた筋繊維腫の1症例	渡邊英孝	形成外科
Plastic Reconstructive Surg. 120(1):1-5.	Superior Epigastric Artery Perforator Flap: Preliminary Report.	Uemura T	形成外科
日形会誌 27(12):828-831.	Munchausen 症候群と診断した成人女性の多趾症の治療経験	原田慶美	形成外科
Cancer Biology & Therapy	Proteomic Comparisons of Oligodendrogiomas with and without 1pLOH	Okamoto H	脳神経外科
International Journal of Urology	Squamous cell carcinoma of the urachus.	Fujiyama C	泌尿器科
西日泌尿器科	コラーゲンゲル三次元混合培養による前立腺癌細胞に対する脂肪細胞の影響の検討。	金子 新	泌尿器科
臨床泌尿器科	肥満と前立腺癌	金子 新	泌尿器科
International Journal of Urology	Management of extrinsic malignant ureteral obstruction with urinary diversion	Kanou T	泌尿器科
Journal of Endourology	Oncologic Assessment of Hand-Assisted Retroperitoneoscopic Nephroureterectomy for Urothelial Tumors of the Upper Tract: Comparison with Conventional Open Nephroureterectomy	Nakashima K	泌尿器科
西日泌尿器科	膀胱褐色細胞腫の3例。	中島のぶよ	泌尿器科
International Journal of Urology	Prostate-specific antigen assay using whole blood samples spotted on filter paper and its application to mass screening for prostate cancer	Nanri M	泌尿器科
腎泌予防医誌	腎細胞癌に対する腎部分切除術においてMRIは有用か?-MRIの偽被膜を surgical marginとしてよいか-	南里正之	泌尿器科
JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY	Multicenter Phase II Study of Fertility-Sparing Treatment With Medroxyprogesterone Acetate For Endometrial Carcinoma and Atypical Hyperplasia in Young Women.	Iwasaka T	産婦人科
Gynecologic Oncology	Antiproliferative effects of the major tea polyphenol, (-)-epigallocatechin gallate and retinoic acid in cervical adenocarcinoma.	Yokoyama M	産婦人科
小計	15 件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Obstetrics & Gynecology	Uterine artery embolization followed by dilatation and curettage for cervical pregnancy.	Nakao Y	産婦人科
日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	子宮体部原発悪性リンパ腫の一例	中尾佳史	産婦人科
日本母性衛生学会雑誌	産後うつ病啓発活動による発症予防効果—1ヵ月健診時のスクリーニング効果—	岩坂 剛	産婦人科
日眼会誌	脈絡膜新生血管を合併した網膜色素変性の2例。	岩切 亮	眼科
Acta Ophthalmologica Scand	Fracture of intraocular forceps during vitrectomy.	Hirata A	眼科
Retina	Plasmin-assisted vitrectomy for management of proliferative membrane in proliferative diabetic retinopathy.	Hirata A	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.	Y-27632, a Rho-associated protein kinase inhibitor, attenuates neuronal cell death after transient retinal ischemia	Hirata A	眼科
日本耳鼻咽喉科学会会報	甲状腺癌の頸部リンパ節転移との鑑別が困難であった結核性リンパ節炎の1例	佐藤慎太郎	耳鼻咽喉科
Auris Nasus Larynx	Hypopharyngeal squamous cell carcinoma bordering ectopic gastric mucosa "inlet patch" of the cervical esophagus	S Satoh	耳鼻咽喉科
Human Pathology	Helicobacter pylori in the palatine tonsils of patients with IgA nephropathy compared with those of patients with recurrent pharyngotonsillitis	Kusano K	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会会報	味覚障害	井之口 昭	耳鼻咽喉科
J Clin Gastroenterol 41:507-512. 2007	Postgastrectomy development or accentuation of focal fatty change in segment IV of the liver: correlation with the presence of aberrant venous branches of the parabiliary venous plexus	Yoshimitsu K	放射線医学
Neuroradiology 49:715-720. 2007	Manganese accumulation in the brain: MR imaging.	Uchino A	放射線医学
小計	13 件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Clin Imaging 31:202-205. 2007	Diffuse cranial nerve and cauda equina lesions associated with breast cancer	Nomiyama K	放射線医学
Clin Imaging 31:329-334. 2007	Spectrum of hepatic surface enhancement on contrast-enhanced CT in various abdominal conditions	Nishie A	放射線医学
Eur J Radiol: 96-104. 2007	Usefulness of the long-axis and short-axis reformatted images of multidetector-row CT in evaluating T-factor of the surgically resected pancreaticobiliary malignancies	Kakihara D	放射線医学
Eur J Radiol Epub 2007	Diagnostic value of the delayed phase image for iso-attenuating pancreatic carcinomas in the pancreatic parenchymal phase on multidetector computed tomography	Ishigami K	放射線医学
Eur J Radiol 61:491-498. 2007	Significance of mesenteric lymphadenopathy after pancreaticoduodenectomy for periampullary carcinomas: evaluation with serial MDCT studies	Ishigami K	放射線医学
Curr Probl Diagn Radiol. 36:213-226. 2007	Imaging spectrum of cystic pancreatic lesions: learn from atypical cases	Irie H	放射線医学
J Comput Assist Tomogr 31:188-192. 2007	Poorly versus moderately differentiated hepatocellular carcinoma: vascularity assessment by computed tomographic hepatic angiography in correlation with histologically counted number of unpaired arteries	Asayama Y	放射線医学
J Magn Reson Imaging 27(1) :132-9. 2008	Usefulness of apparent diffusion coefficient map in diagnosing prostate carcinoma: correlation with stepwise histopathology	Yoshimitsu K	放射線医学
Abdom Imaging. 2008 [Epub ahead of print]	Significance of perivascular soft tissue around the common hepatic and proximal superior mesenteric arteries arising after pancreaticoduodenectomy: evaluation with serial MDCT studies	Ishigami K	放射線医学
Annals of Clinical & Laboratory Science	A Chromogenic Substrate Culture Plate for Early Identification of <i>Vibrio Vulnificus</i> .	Nakashima Y	麻酔科蘇生科
Journal of Infection & Chemotherapy	A fatal case of necrotizing fasciitis due to bacterial translocation of <i>Klebsiella oxytoca</i>	Oishi H	麻酔科蘇生科
Fukuoka Acta Medica	A Survived Case of <i>Vibrio vulnificus</i> with Multiple Endocrine Neoplasma type I.	Amemori H	麻酔科蘇生科
小計	12件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Fukuoka Acta Medica	Iodoform Intoxication: A Case Report o Prolonged Consciousness Disturbance in a Patient with a High Plasma Iodine Level.	Araki K	麻酔科蘇生科
Int J Oral & Maxillofac Surg. 2007. Vol. 36, 365-369.	A case of hyperparathyroidism-jaw tumor syndrome found in the treatment of an ossifying fibroma in the maxillary bone.	Yamashita Y	歯科口腔外科
Int J Oral & Maxillofac Surg. 2007. Vol. 36, 118-122.	Masticatory function and neurosensory disturbance after mandibular correction by bilateral sagittal split ramus osteotomy: a comparison between miniplate and bicortical screw rigid internal fixation.	Yamashita Y	歯科口腔外科
Cell Tissue Res. 2007. Vol. 328, 117-127.	Sequential expression of endothelial nitric oxide synthase, inducible nitric oxide synthase, and nitrotyrosine in odontoblasts and pulp cells during dentin repair after tooth preparation in rat molars.	Danjo A	歯科口腔外科
Biochem Biophys Res Commun. 2007. Vol. 360, 199-204	Cystatin C stimulates the differentiation of mouse osteoblastic cells and bone formation.	Danjo A	歯科口腔外科
Int J Oral & Maxillofac Surg 2007. Vol. 36, 640-645	An orthognathic simulation system integrating teeth, jaw and face data using 3D cephalometry.	Noguchi N	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌 Vol. 53 p248-252, 2007	遺伝子解析により確定診断を得た頬粘膜MALTリンパ腫の1例	山下佳雄	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌 Vol. 53 p633-637, 2007	三次元光造形頭蓋樹脂模型を用いて調整したチタンメッシュと自家腸骨移植による下顎骨再建法	山下佳雄	歯科口腔外科
日本顎変形症学会雑誌 Vol. 17 p265-271, 2007	両側下顎枝矢状分割術後の咀嚼機能ならびに下唇知覚障害の変化	山下佳雄	歯科口腔外科
日本口蓋裂学会雑誌 Vol. 32 p335-340, 2007	口蓋裂を伴ったWolf-Hirschhorn (4p-) 症候群の1例	山下佳雄	歯科口腔外科
日本口蓋裂学会雑誌 Vol. 33 p57-63, 2008	3 Dimensional Computer Graphic (3DCG) software を利用した唇裂患者の顔面形態の表示法	山下佳雄	歯科口腔外科
医療の質・安全学会誌	システムによる医療の質保証と新しい時代のプロフェッショナリズム	小泉俊三	総合診療部
小計	12件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
情報処理学会論文誌 48(4):1710-1719	Moodleとxoopsを基盤とした大学の要求を考慮した学習管理システムの開発と運用	高崎光浩	医療情報部
日本病院薬剤師会雑誌 43(11) 1563-1566, 2007	より高い成果を得る自己評価スコアによるがん専門薬剤師研修カリキュラムの評価	持永早希子	薬剤部
日本病院薬剤師会雑誌 43(12) 1665-1668, 2007	佐賀県の病院および保険薬局における実務実習の現状と長期実務実習に向けての問題点	中野行孝	薬剤部
Jan. J. Neuropsychopharmacol. 27:9-12, 2007	Determination of Paroxetine in Human Saliva by Reversed-Phase High-Performance Liquid Chromatography with UV Detection	Tsuruta T	薬剤部
J Allergy Clin Immunol.	Effect of IL-13 receptor $\alpha 2$ levels on the biological activity of IL-13 variant R110Q.	Izuhara K	検査部
Proc Natl Acad Sci USA.	T helper 1 cells stimulated with ovalbumin and IL-18 induce airway hyperresponsiveness and lung fibrosis by IFN- γ and IL-13 production.	Izuhara K	検査部
Current Signal Transduction Therapy.	IL-13 and its signal pathway: Promising targets in the development of a therapeutic agent for bronchial asthma.	Izuhara K	検査部
FEBS Lett.	Squamous cell carcinoma antigen 1 is an inhibitor of parasite-derived cysteine proteases.	Izuhara K	検査部
Protein Express Purif.	Expression of human IL-13 receptor $\alpha 2$ extracellular domain in Pichia pastoris.	Izuhara K	検査部
Biochem Biophys Res Commun.	Analysis of internal motions of interleukin-13 variant associated with severe bronchial asthma using ^{15}N NMR relaxation measurements.	Izuhara K	検査部
Eur J Haematol.	Characterization of a patient with atypical amegakaryocytic thrombocytopenia.	Izuhara K	検査部
J Immunol.	Identification of pendrin as a common mediator for mucus production in bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease.	Izuhara K	検査部
Protein Expr Purif.	Expression of the extracellular region of the human interleukin-4 receptor α chain and interleukin-13 receptor $\alpha 1$ chain by a silkworm-baculovirus system.	Izuhara K	検査部
小計	13件		

雑誌名	題名	発表者氏名	所属診療科等
Current Topics in Pharmacology	Acceleration of cell growth with low intracellular pH by acetazolamide, without change in intracellular Ca ²⁺ .	Taki K	救急医学講座
小計	1 件		
論文発表等の実績 合計	139 件		

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 宮崎耕治		
管理担当者氏名	総務課長：最所力男 看護部長：田中洋子	患者サービス課長：釘宮 隆 放射線部長：工藤 祥	薬剤部長：藤戸 博 診療記録センター長：小泉俊三

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録	病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課 患者サービス課 薬剤部 看護部 放射線部 診療記録センター	診療記録は、診療記録センターにおいて、1患者1ファイルで集中管理している。 画像診断写真は、放射線部において、集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿 高度の医療の提供の実績 高度の医療技術の開発及び評価の実績 高度の医療の研修の実績	総務課 患者サービス課 患者サービス課 総務課	
	閲覧実績 紹介患者に対する医療提供の実績 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		
規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 感染制御部 医療安全管理室 患者サービス課 医療安全管理室 患者サービス課 患者サービス課 医療安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	経営管理課	
	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者サービス課	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	患者サービス課 感染制御部	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医薬機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター	
	従業者に対する医療機器野安全使用のための研修の実施状況	MEセンター	
		MEセンター	
		MEセンター	

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医学部事務部長	大石 茂博
閲覧担当者氏名	患者サービス課長	釘宮 隆
閲覧の求めに応じる場所	医療相談室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0 件
閲 覧 者 別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地 方 公 共 団 体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	71.3 %	算 定 期 間	平成19年 4月 1日～平成20年 3月 31日
算 A : 紹 介 患 者 の 数			9,125 人
出 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			6,059 人
根 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,546 人
拠 D : 初 診 の 患 者 の 数			17,396 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (1名)・無																													
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (1名)・無																													
③ 医療にかかる安全管理を行う部門の配置状況	(有)・無																													
<p>・所属職員： 専任（1）名 兼任（13）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 (2) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (3) 患者や家族への説明など医療事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 (4) 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに必要な指導を行うこと。 (5) 医療安全に係る連絡調整に関すること。 (6) その他医療安全対策の推進に関すること。 																														
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無																													
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無																													
<p>・指針の主な内容：</p> <p>第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方 第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策に関する基本方針 第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当指針の閲覧に関する基本方針を含む） 第7 患者からの相談への対応に関する基本方針 第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>																														
<p>※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針」添付</p>																														
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																													
<p>・活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。 (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。 (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。 (4) その他医療安全管理に関し必要な事項 																														
<p>※「佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程」、「医療安全管理委員会名簿」添付</p>																														
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 18 回																													
<p>・研修の主な内容：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修内容（テーマ）</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 「医療訴訟の増加に対して我々は今何をすべきか」「医療事故等発生時の診療記録への記載について」「輸血に関するリスクマネジメントについて」 (上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>H19. 7. 31 (1.0時間) H19. 8. 22 (1.0時間)</td> <td rowspan="6">945名</td> </tr> <tr> <td>2 "</td> <td>H19. 8. 23 (1.0時間)</td> </tr> <tr> <td>3 "</td> <td>H19. 8. 24 (1.0時間)</td> </tr> <tr> <td>4 "</td> <td>H19. 8. 27 (1.0時間)</td> </tr> <tr> <td>5 "</td> <td>H19. 8. 28 (1.0時間)</td> </tr> <tr> <td>6 "</td> <td>H19. 11. 6 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>7 「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針について」 (上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)</td> <td>H19. 11. 16 (0.5時間)</td> <td rowspan="6">915名</td> </tr> <tr> <td>8 "</td> <td>H19. 11. 19 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>9 "</td> <td>H19. 11. 20 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>10 "</td> <td>H19. 11. 21 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>11 "</td> <td>H19. 11. 22 (0.5時間)</td> </tr> <tr> <td>12 "</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		研修内容（テーマ）	研修期間	参加人数	1 「医療訴訟の増加に対して我々は今何をすべきか」「医療事故等発生時の診療記録への記載について」「輸血に関するリスクマネジメントについて」 (上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 7. 31 (1.0時間) H19. 8. 22 (1.0時間)	945名	2 "	H19. 8. 23 (1.0時間)	3 "	H19. 8. 24 (1.0時間)	4 "	H19. 8. 27 (1.0時間)	5 "	H19. 8. 28 (1.0時間)	6 "	H19. 11. 6 (0.5時間)	7 「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針について」 (上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 11. 16 (0.5時間)	915名	8 "	H19. 11. 19 (0.5時間)	9 "	H19. 11. 20 (0.5時間)	10 "	H19. 11. 21 (0.5時間)	11 "	H19. 11. 22 (0.5時間)	12 "	
研修内容（テーマ）	研修期間	参加人数																												
1 「医療訴訟の増加に対して我々は今何をすべきか」「医療事故等発生時の診療記録への記載について」「輸血に関するリスクマネジメントについて」 (上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 7. 31 (1.0時間) H19. 8. 22 (1.0時間)	945名																												
2 "	H19. 8. 23 (1.0時間)																													
3 "	H19. 8. 24 (1.0時間)																													
4 "	H19. 8. 27 (1.0時間)																													
5 "	H19. 8. 28 (1.0時間)																													
6 "	H19. 11. 6 (0.5時間)																													
7 「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針について」 (上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 11. 16 (0.5時間)	915名																												
8 "	H19. 11. 19 (0.5時間)																													
9 "	H19. 11. 20 (0.5時間)																													
10 "	H19. 11. 21 (0.5時間)																													
11 "	H19. 11. 22 (0.5時間)																													
12 "																														

13	「医療訴訟から医療を守れ！～医療訴訟の現状・対策・課題～」	H20.3.19(1.0時間)	725名
14	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H20.3.25(1.0時間)	
15	"	H20.3.26(1.0時間)	
16	"	H20.3.27(1.0時間)	
17	"	H20.3.28(1.0時間)	
18	"	H20.3.31(1.0時間)	

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	有	無
<ul style="list-style-type: none"> 医療機関内における事故報告等の整備 (有) · 無) その他の改善の方策の主な内容 : <p>【問題点の把握方法】 インシデント・アクシデント速報システムによる報告、インシデント・アクシデントレポートは全て医療安全管理室で収集している。</p> <p>【問題点の分析方法】 集まった事例は、専任セイフティマネジャーが影響度を分類のうえサマリ化する。 サマリは定例の医療安全管理室会議において分析を行う。</p> <p>【改善策の検討方法】 (1) 問題発生の事象に関連する部署と専任セイフティマネジャーで対応策の検討を行う。 (2) サマリは、定例の医療安全管理室会議において対応策等の検討を行う。 (3) 医療安全管理委員会において審議する。</p> <p>【改善事例】 平成19年4月 9日 医療事故等の連絡経路（時間内、時間外・祝休日） 平成19年4月24日 注射針等の外径を示すカラーコードのISO規格への統一について 平成19年6月13日 病院案内看板AED装置シール貼付位置について 平成19年7月 4日 医療に係る安全管理・院内感染対策のための指針について 平成19年11月6日 CVCに関する指針について 平成20年4月 4日 患者情報漏洩等の防止について 平成20年4月24日 電子カルテ検査情報表示の不具合について 平成20年5月 9日 胃管の誤挿入防止について（再通知） 平成20年5月27日 電子カルテ検査情報表示の不具合対応について</p> <p>【インシデント・アクシデント報告件数】 平成19年度 1,287件 (インシデント 1,262件 (うち、医師の報告件数 92件) (アクシデント 25件 (うち、医師の報告件数 17件) 平成20年度 605件 (平成20年6月現在) (インシデント 600件 (うち、医師の報告件数 41件) (アクシデント 5件 (うち、医師の報告件数 3件)</p>		

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) · 無																																																													
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容 : <p>第1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方 第2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項 第3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針 第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針 第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>																																																														
※「佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針」添付																																																														
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回																																																													
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容 : <p>院内感染対策委員会では、次に掲げる事項の審議をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内感染の予防に関すること。 (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。 (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。 (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。 (5) 感染制御部の運営に関すること。 (6) その他感染予防及び対策に関すること。 																																																														
※「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程」、「院内感染対策委員会名簿」添付																																																														
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回																																																													
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容 : <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修内容 (テーマ)</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>「カテーテル関連血流感染(CRBSI)の予防」</td><td>H19. 9. 11 (1.0時間)</td><td rowspan="6">905名</td></tr> <tr><td>2</td><td>(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>H19. 9. 25 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>3</td><td>"</td><td>H19. 9. 26 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>4</td><td>"</td><td>H19. 9. 27 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>5</td><td>"</td><td>H19. 9. 28 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>6</td><td>"</td><td>H19. 10. 1 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>7</td><td>「標準予防策：感染防護具(PPE)を正しく使おう」</td><td>H19. 11. 6 (0.5時間)</td><td rowspan="6">908名</td></tr> <tr><td>8</td><td>(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>H19. 11. 16 (0.5時間)</td></tr> <tr><td>9</td><td>"</td><td>H19. 11. 19 (0.5時間)</td></tr> <tr><td>10</td><td>"</td><td>H19. 11. 20 (0.5時間)</td></tr> <tr><td>11</td><td>"</td><td>H19. 11. 21 (0.5時間)</td></tr> <tr><td>12</td><td>"</td><td>H19. 11. 22 (0.5時間)</td></tr> <tr><td>13</td><td>「院内発症の腸管感染症の対策」</td><td>H20. 1. 8 (1.0時間)</td><td rowspan="6">784名</td></tr> <tr><td>14</td><td>(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)</td><td>H20. 1. 11 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>15</td><td>"</td><td>H20. 1. 16 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>16</td><td>"</td><td>H20. 1. 17 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>17</td><td>"</td><td>H20. 1. 21 (1.0時間)</td></tr> <tr><td>18</td><td>"</td><td>H20. 1. 22 (1.0時間)</td></tr> </tbody> </table>			研修内容 (テーマ)	研修期間	参加人数	1	「カテーテル関連血流感染(CRBSI)の予防」	H19. 9. 11 (1.0時間)	905名	2	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 9. 25 (1.0時間)	3	"	H19. 9. 26 (1.0時間)	4	"	H19. 9. 27 (1.0時間)	5	"	H19. 9. 28 (1.0時間)	6	"	H19. 10. 1 (1.0時間)	7	「標準予防策：感染防護具(PPE)を正しく使おう」	H19. 11. 6 (0.5時間)	908名	8	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 11. 16 (0.5時間)	9	"	H19. 11. 19 (0.5時間)	10	"	H19. 11. 20 (0.5時間)	11	"	H19. 11. 21 (0.5時間)	12	"	H19. 11. 22 (0.5時間)	13	「院内発症の腸管感染症の対策」	H20. 1. 8 (1.0時間)	784名	14	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H20. 1. 11 (1.0時間)	15	"	H20. 1. 16 (1.0時間)	16	"	H20. 1. 17 (1.0時間)	17	"	H20. 1. 21 (1.0時間)	18	"	H20. 1. 22 (1.0時間)
	研修内容 (テーマ)	研修期間	参加人数																																																											
1	「カテーテル関連血流感染(CRBSI)の予防」	H19. 9. 11 (1.0時間)	905名																																																											
2	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 9. 25 (1.0時間)																																																												
3	"	H19. 9. 26 (1.0時間)																																																												
4	"	H19. 9. 27 (1.0時間)																																																												
5	"	H19. 9. 28 (1.0時間)																																																												
6	"	H19. 10. 1 (1.0時間)																																																												
7	「標準予防策：感染防護具(PPE)を正しく使おう」	H19. 11. 6 (0.5時間)	908名																																																											
8	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H19. 11. 16 (0.5時間)																																																												
9	"	H19. 11. 19 (0.5時間)																																																												
10	"	H19. 11. 20 (0.5時間)																																																												
11	"	H19. 11. 21 (0.5時間)																																																												
12	"	H19. 11. 22 (0.5時間)																																																												
13	「院内発症の腸管感染症の対策」	H20. 1. 8 (1.0時間)	784名																																																											
14	(上記、本開催研修会の収録ビデオ上映)	H20. 1. 11 (1.0時間)																																																												
15	"	H20. 1. 16 (1.0時間)																																																												
16	"	H20. 1. 17 (1.0時間)																																																												
17	"	H20. 1. 21 (1.0時間)																																																												
18	"	H20. 1. 22 (1.0時間)																																																												
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況																																																														
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備 ((有) · 無) その他の改善のための方策の主な内容 : <p>情報を院内Web上で毎日更新し、院内に公開している。また、新規発生MRSAやその他耐性菌については、感染制御部で部署への訪問や確認を行っている。</p>																																																														

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>													
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回													
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容 : <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研修内容 (テーマ)</th> <th>研修期間</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「医薬品安全のための手順とその実施評価について」</td> <td>H19. 10. 16 (0.5時間)</td> <td>330名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「副作用速報システムの運用について」</td> <td>H20. 1. 7 (0.5時間)</td> <td>330名</td> </tr> </tbody> </table>				研修内容 (テーマ)	研修期間	参加人数	1	「医薬品安全のための手順とその実施評価について」	H19. 10. 16 (0.5時間)	330名	2	「副作用速報システムの運用について」	H20. 1. 7 (0.5時間)	330名
	研修内容 (テーマ)	研修期間	参加人数											
1	「医薬品安全のための手順とその実施評価について」	H19. 10. 16 (0.5時間)	330名											
2	「副作用速報システムの運用について」	H20. 1. 7 (0.5時間)	330名											
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況														
<ul style="list-style-type: none"> 手順書の作成 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) 業務の主な内容 : <p>以下の項目について、「できている」か「要改善」かのチェックを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品保管証には必要最小限の薬剤である。 (2) 医薬品保管証の薬品以外に余剰の薬品はない。 (3) 麻薬、覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬は施錠できる場所で区別して保管している。 (4) 医薬品の保管場所にきちんと表示がある。 (5) 冷所保存の医薬品が整理整頓されている。 (6) 緊急の場合以外は、口頭指示だけでなく、指示簿や処方せんで指示を受けている。 (7) 内服薬の準備の時には、薬剤を二人でチェックしている。 (8) 注射薬調整では、2度以上の薬剤確認を行っている。 (9) 点滴投与を開始した後は、点滴ルートから液漏れがないかの確認や、全身状態の確認をしている。 (10) 新鮮凍結血漿は常に37℃で溶解し、3時間以内に使用している。 														
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況														
<ul style="list-style-type: none"> 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) その他の改善の方策の主な内容 : <p>医薬品に係る添付文書等の収集方法として、DSUによる変更点の収集およびメーカーへの変更後の添付文書の送付を依頼している。</p> <p>また、得られた情報のうち必要なものについて医薬品を取り扱う職員に対して、小冊子「薬局からのお知らせ」を月に1回発行し、各病棟、各診療科へ配付し、その中にDSUも含めて周知している。</p> <p>その他にも、緊急に通知する必要がある場合は、隨時、各病棟、各診療科へ配付している。</p>														

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有) • 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 10 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <p>補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、診療用エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置の安全使用のための研修を行っている。</p> 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 計画の作成 (有) • 無) 保守点検の主な内容： <p>(医療機器関係) 点検は機器の性質や性能などにより細部の点検項目が異なるもの大きく分類すると、外観・機能・性能・電気的安全性点検等から構成され、これらの項目を基に製造業者の取扱説明書及び添付文書に記載されている事項を参考にし、機器毎に保守点検表を作成し点検を行っている。</p> <p>(放射線関係) 製造業者の点検説明書及び添付文書に基づき、電気的安全点検、機械的安全点検、予防的点検等、保守点検表を作成し行っている。</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) • 無) その他の改善の方策の主な内容： <p>【収集方法】</p> <p>(医療機器関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6回医療機器安全対策研究会出席（平成19年3月、名古屋） 第17回日本臨床工学会出席（平成19年5月、名古屋） 各製造メーカー等より情報が寄せられる。 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。 <p>(放射線関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各製造業者より安全情報が提供される。 医薬品医療機器等安全性情報（厚生労働省ホームページ）及び医療機器関連情報（医薬品医療機器総合機構ホームページ）より情報収集を行っている。 平成19年度九州地域放射線技術研修会を受講「医療法改正に伴い診療放射線技師に求められる医療機器の安全管理」 <p>【提供・周知方法】</p> <p>(医療機器関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> メーカーより提供された文書等を回覧（MEセンター内回覧板）し、各々が閲覧・捺印する通知方法を実施している。 院内の各部門へはWebを利用した院内マニュアル統合管理システムでの医療機器の取扱説明書及び添付文書が閲覧及び印刷できる環境を構築している。また、医療機器情報提供ホームページより各種情報を提供する環境を構築中である。 <p>(放射線関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業者より提供された情報文書を機器に携わる者へ閲覧させ、保存ファイルしている。 放射線部情報システム（RIS）を使用し、装置マニュアル及び安全管理マニュアルの閲覧が可能なように構築中である。 	

佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理のための指針

平成16年4月1日
制 定

第1 本院における医療安全管理に関する基本的考え方

事故のない安全な医療を提供していくためには、医療従事者一人一人が危機意識を持って、日々の患者の診療に当たると同時に、医療に係る知識や技術を一定のレベル以上に保つことが不可欠である。

しかし、大学病院のように巨大で複雑なシステムの下で行なわれている医療においては、経験豊富な医療従事者であっても、うっかりミスや医療事故を起こすことがある。また些細なミスがいくつも重なり合うような、あるいはシステムに原因するような複合要因によって重大な事故が引き起こされる危険がある。

このため医療においても「人間はエラーを起こす」という前提に基づき、エラーを誘発しない環境や起こったエラーを吸収して事故を未然に防ぐ体制を構築していく。

第2 医療安全管理委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

本院における医療安全管理に関する基本的な考え方を踏まえて、病院長は、医療に係る安全管理のための体制を確保するため、次の委員会等を設置する。

(医療安全管理委員会)

本院内の安全管理の体制の確保及び推進のために設けるもので、医療安全対策に関する重要事項等について審議し、方針を決定する機関である。

なお、同委員会は、院内感染対策委員会や医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者などの他の関連組織と連携を取り、効率的かつ効果的な医療安全対策を講じるものとする。

(医療安全管理室)

医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の安全管理を担う部門である。

(医療安全管理者)

医療安全管理室に所属し、同室の業務に関する企画立案及び評価、並びに職員の安全管理に関する意識の向上や指導等の業務を行うなど病院全体の安全管理を担当する者である。

(セイフティマネジャー)

所属する部署のインシデント・アクシデント情報を把握し、医療安全管理者への報告及び連絡調整を行う。また、当該安全対策の決定方針に基づく改善策等について所属職員に周知徹底を図るとともに、それらが確実に実施され、かつ安全対策として有効に機能しているか常に点検・評価するなど各部署単位での安全対策を推進

する者である。

(セイフティマネジャー連絡会議)

セイフティマネジャー及び医療安全管理室の正副室長で構成され、本院でのインシデント事例等及び安全対策の決定方針に基づく改善策などの情報を共有し、セイフティマネジャーに周知徹底を図る部会である。

第3 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針

- ・病院長は、個々の職員の安全管理に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るために、病院全体に共通する医療安全管理に関する内容についての研修を年2回以上定期的に開催する。
- ・病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の安全管理に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策に関する基本方針

- ・本院内で発生したインシデント等の報告は、まず、全職員を対象とした「インシデント・アクシデント速報システム（Web ページ）」を利用して行い、基本的に医療事故につながる可能性のある事例等を早期に広く収集し、これらインシデント事例等を活用した医療に係る安全の確保を図るものとする。
- ・このために、医療安全管理室は、医療安全管理委員会への報告等、予め定められた報告体制に従い事例を収集、分析することにより安全管理に関する問題点を把握して、病院組織としての改善策の企画立案やその実施状況を評価するものとし、これら必要な情報を関係各部署へフィードバックしていく。
- ・なお、インシデント事例等に対し主体的・積極的な報告は、各医療従事者がお互いに「事例に学ぶ」という姿勢を堅持するという認識と職場環境のもとで行われ、また、原因分析に際しては、「誰が」ではなく、「何が」「何故」起きたかに視点を置くものとする。

第5 医療事故等発生時の対応に関する基本方針

- ・医療事故等が医療側の過失によるか否かを問わず、患者に望ましくない事象が発生した場合は、本院内の総力を結集して、患者の救命と被害の拡大防止に全力を尽くす。
- ・事故発生後、可及的速やかに、事故の状況、現在実施している処置、予後等について患者本人、家族等に誠意をもって説明をする。
- ・重大な事故の発生時には、速やかに病院長へ報告する。
- ・事故の場合にあっての報告は、診療録等に基づき作成する。
- ・その他医療事故等発生時の対応については、本院「セイフティマネジメントマニュアル」の「医療事故等発生時における対応指針」に沿って対応する。

第6 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当

指針の閲覧に関する基本方針を含む。)

本指針（本院ホームページ掲載）の内容を含め、医療従事者は患者との情報の共有に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

第7 患者からの相談への対応に関する基本方針

- ・医療行為等に関する患者等からの相談に対しては、担当者及びその責任者などを決め、誠実に対応するとともに相談により患者等が不利益を受けないよう適切な配慮を講じる。
- ・これら相談は、速やかに病院長等へ報告し、また、本院の安全対策等の見直しに活用していくものとする。

第8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針

医療安全の推進のために、「セイフティマネジメントマニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請等に応じて、また第三者機関の評価、患者の参加等を通じて常に改訂・改善を図っていくものとする。

附 則

この指針は、平成14年12月19日から施行する。

附 則（平成15年10月1日改正）

この指針は、平成15年10月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日改正）

この指針は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年6月25日改正）

この指針は、平成19年6月25日から施行する。

附 則（平成20年3月21日改正）

この指針は、平成20年4月1日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会規程

〔平成16年4月1日
制定〕

(設置)

第1条 佐賀大学医学部附属病院における医療に係る安全管理の体制の確保及び推進のため、佐賀大学医学部附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医療事故に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (2) 発生した医療事故の原因分析及び改善策等に関すること。
- (3) 医療事故防止のための教育・研修に関すること。
- (4) その他医療安全管理に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 医療安全管理室長
- (3) 医療安全管理室副室長（医療安全管理責任者）
- (4) 診療科の科長のうち若干人
- (5) 中央診療施設等の部長等のうち薬剤部長（医薬品安全管理責任者）及びM Eセンター長（医療機器安全管理責任者）を含む若干人
- (6) 看護部長
- (7) 事務部長
- (8) その他必要の都度病院長が指名した者

2 前項第4号及び第5号に掲げる委員は、病院長が指名する。

3 第1項第4号及び第5号に掲げる委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を行する。

(議事)

第5条 委員会は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。

2 委員会は、委員の過半数以上の出席をもって開き、その議決は、出席委員の過半数の同意による。

(代理出席)

第6条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴取することができる。

(他の委員会との連携)

第8条 委員会は、院内感染対策の推進に関することについては「佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会」において審議・策定させる分業体制をとる。但し、同委員会における重要な検討内容については、病院長へ報告することとする。

(事務)

第9条 委員会における資料及び議事録の作成並びに保存、その他庶務に関することは医療安全管理室において行う。

2 その他委員会に関する事務は、患者サービス課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成17年10月27日改正）

この規程は、平成17年10月27日から施行する。

附 則（平成19年9月6日改正）

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

附 則（平成20年3月21日改正）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

医療安全管理委員会名簿

20年度	
委員長 病院長	宮崎 耕治
医療安全管理室長	濱崎 雄平
医療安全管理室副室長	奥村 徹
医療安全管理室副室長	山田みゆき
各診療科の科長 のうち若干人	魚住二郎
	野出孝一
	藤戸 博
	濱崎 雄平
	工藤 祥
	瀧 健治
	中島 幹夫
	小泉 俊三
看護部長	田中 洋子
事務部長	大石 茂博
その他必要都度 病院長が指名した者	—
	13名

佐賀大学医学部附属病院における医療に係る院内感染対策のための指針

(平成 19 年 6 月 19 日制定)

第 1 本院における院内感染対策に関する基本的考え方

院内感染は患者が多大なる不利益を被るのみでなく、人的・経済的に医療財源を圧迫し、結果として医療の質そのものを著しく低下させる。このため、院内感染を未然に防ぐ手段を恒常に院内で周知・遵守すると同時に、診療科横断的に発生する感染症に専門的診療を行うことが不可欠である。加えて、医療スタッフの職業感染曝露を防止することが必要である。

これらの目的のために、当院では専任スタッフで構成される感染制御部を感染対策の中核的機能として常置する。ここでは病原菌の院内疫学的解析に基づく医療関連感染の制御と防止に努める一方、専門医による感染症診療を全診療科に提供することにより、感染対策と感染症診療が常に相補的に機能する体制の維持・向上を可能とする院内感染対策を構築する。

第 2 院内感染対策のための委員会その他本院内の組織に関する基本的事項

(院内感染対策委員会)

- 院内感染対策委員会は、本院における院内感染対策について必要なことを審議する。

(感染制御部)

- 院内感染対策委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に本院内の感染対策を担う部門である。

(感染対策専任看護師長)

- 感染制御部門の業務に関する企画立案および評価、病院内における職員の院内感染対策に関する意識の向上や指導の業務を行う者である。

第 3 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針

(院内研修)

- 病院長（管理者）は、個々の職員の院内感染対策に対する意識の啓発、安全に業務を遂行するための技能、チーム医療の一員としての意識の向上を図るために、病院全体に共通する院内感染防止に関する内容についての研修を年 2 回以上定期的に開催する。
- 病院長は、新規採用職員及び医員（研修医）に対し本院の院内感染対策に対する基本的な考え方、方針、事項を周知させるとともに、その遵守を徹底させる。

第4 感染症の発生状況の報告に対する基本的対応方針

- ・届出が必要な感染症が発生した場合は、感染制御部の指導・援助の下、主治医名で速やかに報告する。
- ・抗菌薬耐性菌を含む病原菌の分離状況については微生物検査室から感染制御部に定期的に報告を受け、サーベイランスを実施し、アウトブレイクに対応する。

第5 院内感染発生時の対応に関する基本方針

院内感染が発生した場合の対応は原則として次に定めるところによる。

- (1) 院内感染発生現場の医療従事者、あるいは微生物検査室からの報告に基づき、感染制御部スタッフが感染症発生状況の解析を迅速に行い、考えられる感染症の制御に必要な一次措置を直ちに講じる。
- (2) 前号の措置後、感染制御部長または副部長は、当該感染症の発生について病院長、診療科長、看護部長および事務部長にただちに報告する。
- (3) 病院長等は院内感染が発生した場合には、必要に応じて緊急の感染制御部会議を招集し、本院の院内感染に係る原因調査、分析、再発防止策を検討させる。
- (4) その他院内感染が発生した場合の対応の詳細については別に定める。

第6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針

本指針の内容を含め、職員は患者との情報の共有（本院ホームページ掲載）に努めるとともに、患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じる。

第7 その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針

院内感染対策の推進のために「院内感染対策マニュアル」を作成し、病院職員へ周知するとともに、その内容は講じた対策の効果や現場からの要請に応じて、また、第三者機関の評価などを通じて常に改定・改善を図ってゆくものとする。

附 則

この指針は、平成19年6月19日から施行する。

佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会規程

〔平成 16 年 9 月 24 日
制定〕

(設置)

第1条 佐賀大学医学部附属病院における院内感染の予防及び対策のため、佐賀大学医学部附属病院院内感染対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 院内感染の予防に関すること。
- (2) 院内感染予防に係る情報の収集に関すること。
- (3) 院内感染源及び感染経路の調査に関すること。
- (4) 院内感染予防対策の確立に関すること。
- (5) 感染制御部の運営に関すること。
- (6) その他感染予防及び対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 病院長
- (2) 感染制御部長
- (3) 感染制御部副部長
- (4) 検査部、手術部、材料部及び輸血部の各部長
- (5) 薬剤部長
- (6) 看護部長
- (7) 栄養管理委員会委員長
- (8) 歯科口腔外科の科長
- (9) 診療科長又は副診療科長のうち若干人
- (10) 事務部長
- (11) その他病院長が指名する者若干人

2 前項第9号及び第11号に掲げる委員は、病院企画室会議の議を経て、病院長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第9号及び第11号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残余の期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、感染制御部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に支障があるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行

する。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

(代理出席)

第7条 第3条の委員がやむを得ない理由により委員会に出席できない場合は、あらかじめ委員長の了解を得た者を代理に出席させることができる。

2 前項の者は、第3条の委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、経営管理課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年9月24日から施行する。

2 この規程の施行後最初に委嘱される第3条第1項第9号及び第11号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

附 則（平成17年4月14日改正）

この規程は、平成17年4月14日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成19年3月22日改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年9月6日改正）

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

院内感染対策委員会名簿

診療科等名		氏名	電話	備考
感染制御部長	委員長	青木 洋介	3242	
病院長		宮崎 耕治	3302	PHS2325 秘書室3305
感染制御部副部長		福岡 麻美	3534	
感染制御部副部長		三原由起子	3960	感染対策担当看護師長
検査部長		出原 賢治	3753	
手術部長		中島 幹夫	2320	
材料部長		後藤 昌昭	2329	
輸血部長		(出原 賢治)		
栄養管理委員会委員長		濱崎 雄平	2310	
診療科長または副科長のうち若干人	泌尿器科	魚住 二郎	2333	
	呼吸器内科	林 真一郎	2356	
	脳神経外科	松島 俊夫	2330	
	膠原病・リウマチ内科	長澤 浩平	2350	
	小児科	(濱崎 雄平)	2310	
薬剤部長		藤戸 博	3161	
看護部長		田中 洋子	3330	
事務部長		大石 茂博	3310	
歯科口腔外科の科長		(後藤 昌昭)		
病院長の指名する者若干人	病因病態科学	宮本 弘呂志	2245	
計		16名		定足(9名)